



地域・時代を超えて文化をつなぐ
キーワードは“楽しさ”と“美味しさ”

中央学院大学／地域史料保全有志の会
白水 智

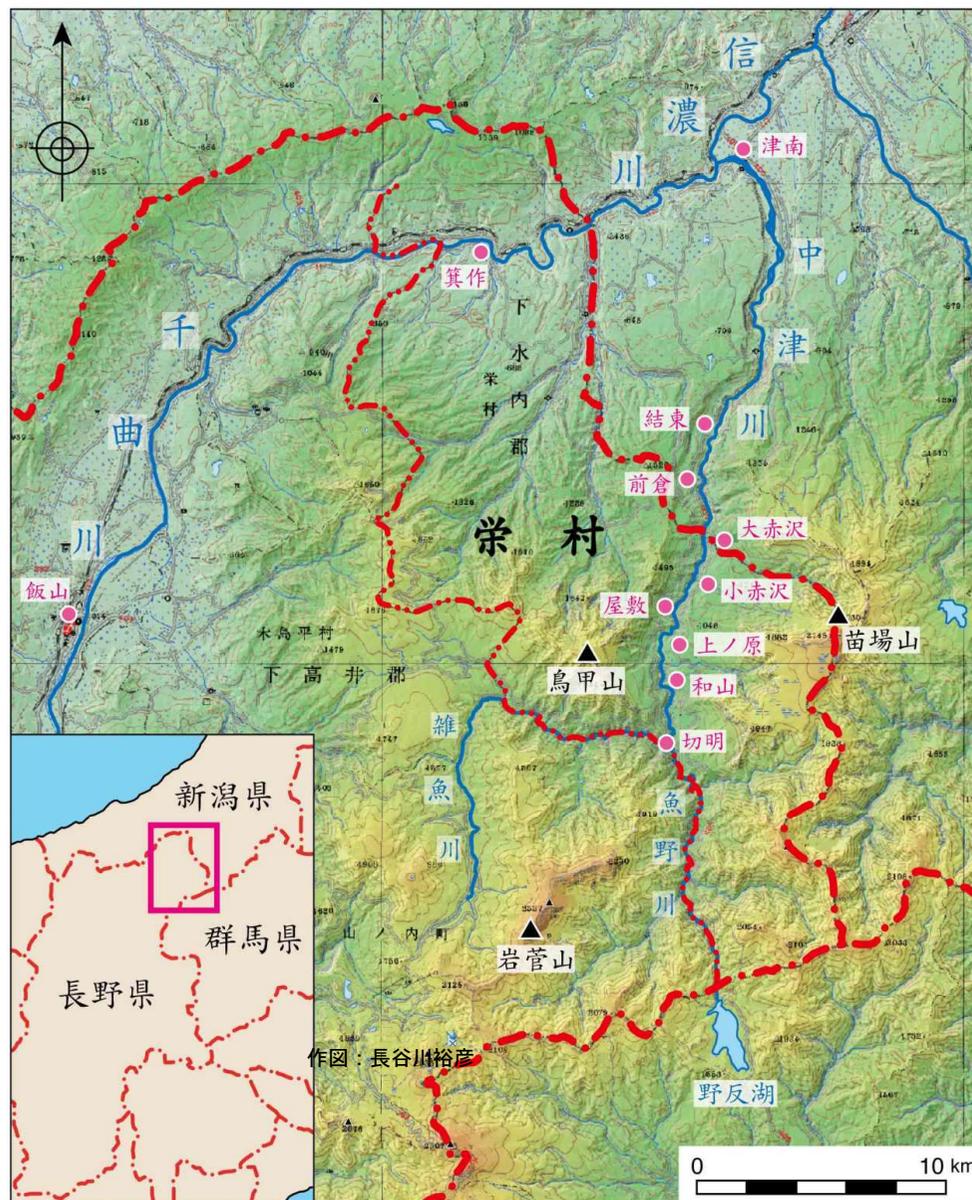
1. 緊急事態はいつまでも続かない

■ 栄村を地震が襲った！～3.12の長野県北部地震の概要



[長野県栄村]

- 平家落人伝説に彩られた秘境山村「**秋山郷**」を管下を含む。奥地には標高2000メートルを超える苗場山・鳥甲山がある。
- 豪雪地**として有名。森宮野原駅前にはJR駅最高積雪記録の標柱(785 cm)が立つ。
- 人口約1584人(今年6月1日現在)。面積271.51平方km。高齢化率54.8%(2023年4月1日現在)。
- 農業中心の村。米のほか、豊富な山菜やキノコが村の特産品。
- 江戸時代の文政年間に塩沢町の文人鈴木牧之が訪問し、見聞をカラーのイラストとともに記した『**秋山記行**』を著す。
- 2011年3月12日に発生した**長野県北部地震**で大きな被害を受けた。



[震災の発生]

2011年3月12日 未明(東日本大震災から13時間後)

午前 3 時59分 長野県栄村 震度 6 強 M6.6

同 4 時32分 長野県栄村 震度 6 弱 M5.8

同 5 時42分 長野県栄村 震度 6 弱 M5.3

約1時間半の間に震度6を記録する大地震が3回発生！

しかし

東日本大震災やその後の原発事故に隠れてほとんど報道されず、
「忘れられた大震災」とも呼ばれた

[震災による被害（『栄村復興計画』による）]

全壊家屋	33棟
半壊家屋	172棟
一部損壊	521棟
非居住構築物	1047棟
計	1773棟

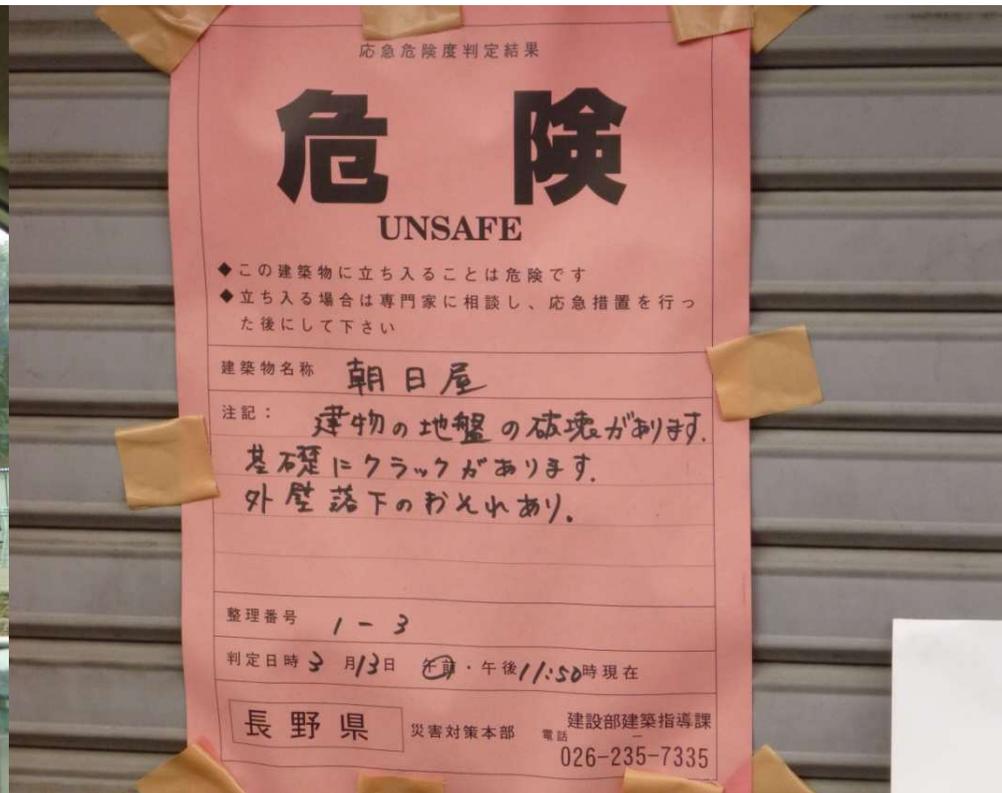
※村全世帯数 931世帯(2011年2月1日現在)



鉄道・道路・耕地等の多大な被害

- ◆ JR飯山線路盤の崩落・中条川流域の深層崩壊
- ◆ 橋梁のズレによる通行不能
- ◆ 道路・水田・水路の亀裂や崩れ多数





[次々に廃棄される文化財]

被災直後の全壊建物の解体・撤去



罹災証明発行



公費による建物解体が急速に進行



現用でない民具や古文書など
文化財の廃棄



※傷んだ建物は、12月までにほぼ解体

[日本有数の豪雪地]



[日本有数の豪雪地]





■手探りの文化財レスキュー開始

[初動から試行錯誤の連続！]

史料調査は20年以上経験してきたが(フィールドワークには慣れていた)、
災害現場での文化財レスキューは**初めての経験**

- 初回のGW活動時…以前調査した土蔵の応急的な片付けと数件の古民家や土蔵での文化財確認
- 第2回の6月 …古文書のわかるメンバーと民具のわかるメンバーをペアにしての古民家回り
(初めて「**持って行ってくれ**」と言われる経験)
- しかし村教委は「保管場所はないから、各家で保存してもらおう」方針
- 私の責任で行き場のない文化財の救出を宣言し、仮保管場所探し



以後すべてが試行錯誤の連続

[震災発生当年からの活動]

■2011年度(文化財の救出)

- ・ 3月 震災発生
- ・ 4月 初めての文化財保全活動
- ・ 5月 活動資金口座開設(会名称決める)
- ・ 6月 「地域史料保全有志の会」正式に結成
- ・ 7月 仮保管場所探し
(廃棄資料の救出宣言で教委の姿勢が変化)
- ・ 8月 第1回民具大移動プロジェクト
(村内各所→志久見分校へ)
- ・ 9月 整理活動開始
- ・ 3月 年度末報告会開催



[「地域史料保全有志の会」 の発足]



[屋根裏から、土蔵から、空き家から…]



[仮保管庫への運搬「第1回民具大移動プロジェクト」]



志久見地区にある旧東部小学校志久見分校の校舎(昭和初期の建築)



[年度末の報告会]



まなじりを決しての一年間だった

誰もが使命感に燃えていた

しかし、使命感だけでは何年も続かない...

2. 救出してからが本番

■ 1年目後半から整理を開始 ここからが長丁場



■ 3分野の協働で整理を行った

- 「人文学」の視野から専門の枠を超えて、なるべく3分野(文献・民具・考古)が互いに関心を持ちつつ一体的に活動
- 敢えて同じ場所で資史料整理活動…互いの活動を横眼で見ながら、感じながら





■歴史と文化の拠点施設の提唱

[村長・教育長あてに文化面での復興に関する提言書を提出]

2012年(平成24年)8月9日

栄村長 島田茂樹 様

栄村教育長 宮川幹雄 様

地域史料保全有志の会

代表 白水 智

栄村の文化および文化財にかかわる震災復興計画について

(提言)

2011年(平成23年)3月の長野県北部震災後、栄村において文化財の救出保全活動を続けてきた有志団体「地域史料保全有志の会」を代表して、今後の栄村における保全・活用に関わる復興計画に関してご提言をさせていただきます。

〔「栄村歴史文化館 こらっせ」の設置へ〕

震災から5年を経て、2016年8月についにオープン！

旧・東部小学校志久見分校(1936年建築)



震災後の
仮保管地



(愛称:こらっせ)(2014年改修)

〔「栄村歴史文化館」のコンセプト〕

- 旧分校の面影をできるだけ残し、懐かしい空間に
- 人が常駐し、人が守り、人が迎える施設に
- 気軽に立ち寄れる憩いの場所に
- 憩いの場所に文化財が自然に共存している空間に



[「栄村歴史文化館」の機能と活かし方]

➤ 基本的な機能

- 文化財を収蔵する
- 文化財を展示する
- 文化財を整理・研究する

➤ 活かし方

- 文化を学ぶ(小中学生・村民・研修者・観光客その他)
- 文化財を利用する(食器・農具・手作業道具など)
- 文化に親しみ、楽しむ(ワークショップ・見て楽しむ)
- 憩いの場にする(食事・音楽・お茶呑み)

◆ キーワードは「人」。文化は人とともにあってこそ。
人が守り、人が集い、人が学ぶ、温もりのある場に！

■炊き出しも宿泊費の値引きもレスキュー支援

[できる人ができることをできる範囲で]

さまざまな支援のあり方

- 文化財の救出や整理に参加
- 参加者への炊き出し
- 地元食材や茶菓子・飲み物の差し入れ
- 宿泊施設の割引
- 活動資金の寄付
- メールでのメッセージ



すべてが支援。「楽しさ」「継続」へのつながり



食の魅力は人を惹きつける...

[第2回民具大移動プロジェクト(2013年8月)の際には…]









■ 充実した文化を「味わう」こととともにある活動

～文化は身近な楽しみのとりにある

整理や活用の段階に入ったら、使命感だけでは続かない。
楽しみの要素が不可欠。地元の方と共に楽しむことが重要。

[食を楽しむ]

食の共有は重要。食は万人にとってつながりのツール。

栄村の活動では「食」をととても重視している。地元の方からの差し入れも多く、それら素材を使った自炊料理を毎回楽しみにしている参加者も多い。村民による炊き出しもしばしば。

民具大移動などのプロジェクト時には「炊き出し班」も編成した。



保全した大量の漆器の一部をこらっせでの食事にも活用している(漆器は適度に使うとよい)





毎回の活動で行っているワンコイン昼食!



文献班・民具班：2024年4月26日～30日
考古班：2023年11月15日～17日・2024年2月1日～3日・
2024年5月7日～8日

**長野県北部震災被災地(栄村)における
文化財保全活動(第89回)報告**

[2024年8月17日版]



地域史

2023年4月27日～5月1日

**長野県北部震災被災地(栄村)における
文化財保全活動(第84回)報告**

[2023年6月14日版]



2012年10月5日～8日 (第18回)

**長野県北部(栄村)震災被災地における
文化財保全活動(第18回)報告**

[2012年10月31日・一般報告版]



地域史料保全有志の会

2014年5月23日～26日 (第34回)

**長野県北部(栄村)震災被災地における
文化財保全活動(第34回)報告**

[2014年7月4日・一般報告版]



地元の方が村を見下ろす絶景の場所で山菜料理を振る舞ってくださった(撮影:石野隼子)

地域史料保全有志の会

2017年8月16日～21日

**長野県北部震災被災地(栄村)における
文化財保全活動(第61回)報告**

[2017年9月19日 一般報告版]



2018年4月26日～5月1日・25～26日・6月28～29日

**長野県北部震災被災地(栄村)における
文化財保全活動(第67回)報告**

[2018年8月6日版]



2018年2月11日～15日

**長野県北部震災被災地(栄村)における
文化財保全活動(第65回)報告**

[2018年3月1日 一般報告版]



山の神に感謝を捧げる十二講の道会で振る舞われたウサギ汁

地域史料保全有志の会

[生活文化を楽しむ]

- 地元の方が「見て欲しい」「体験して欲しい」と思うものに積極的に関わる。
- 外部者には活動している地域の文化の豊かさを実感し、地元住民には改めて地域の良さを見直し、誇りうるものを見出すきっかけになる。それが更なる活動への意欲となる。



保全活動の合間に、ワラビ採り、キノコ採り、地区の祭への参加、タケノコ交流会への参加、古道歩きイベントへの参加、豪雪体験、藁細工体験をしたり、小学校に出向いて藪からの糸取り体験、土器づくり体験なども行ってきた。

[長く続く活動にするには?]

- 文化財と文化活動を日常のものにしていく
- 活動自体を楽しいものにしていく





地域・時代を超えて文化をつなぐ
キーワードは“楽しさ”と“美味しさ”

中央学院大学／地域史料保全有志の会
白水 智